

月上旬に本を見らるに小き突なりて蒂の
長サ七八分程あり秋ハ熟して色黒しとそ
先年領主より取寄有りて枝を折て上
りれたる名志。人なりりといふおもひに
良実の塚ありて旧里の本を立寄て塚下に
植りりや。古人曰小野地古い山は有りて
大邑よりーに中古大地震ありて地勢大
に變邑民も居を而くに移しりといふ大
河の畔は稲多といふ所あり昔小野は老
あり大河のより船きて稲を運るも此と

いふ又曰昔武公は海山へ 勅使をーて
りをもあつたを月ありてあの玉は香の
深きを分るあひ長考の許に立寄せあふ
は何てやりなる娘出て居仕なと志々々
りりなるををあめあふ小野小所といふ
ハ是なりといふ小所ハ出羽郡目の女とい
ふ半書しも程々見へ侍れたる古人のいふ
も趣なところある宝曆七年鴨川村某所
堂無事進状は姓古の館といふ旭勢反新
九郎備氏ハ人託州能成の妻生るにより